

機関番号：12102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21710249

研究課題名（和文） 記憶の中のソ連時代：中央アジア地域研究のための映像資料作成の試み

研究課題名（英文） Soviet Union Remembered: Documenting Visual Material for Central Asian Area Studies

研究代表者

ティムール ダダバエフ（TIMUR DADABAEV）

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・准教授

研究者番号：10376626

研究成果の概要（和文）：

本研究は、普通の中央アジアの人々のソ連時代に関する記憶を収集するとともにこれを映像資料として市民に還元し、その共有化を目的とする。これは、広く近現代史と現代の変容や社会内の諸問題に対するローカルレベルでの認識の深化を促す。その成果として以下の3つがあげられ、それらは①人々の証言、資料の収集、画像化とデータベース化、②国際会議において成果の公表と③『記憶の中のソ連—中央アジアの人々が生きた社会主義時代』（筑波大学出版会、2010年、270ページ）の刊行である。

研究成果の概要（英文）：

As indicated above, the task of recording, preserving and disseminating the qualitative data on what people experienced in their daily lives and on their relations to the ideology and political structure of the Soviet government Communist party is very urgent and important one. The urgency of this task comes from the fact that many of those who experienced Soviet life and those who have in-depth and detailed knowledge about how people lived at Soviet times are getting older with many of these people passing away. With them, they take away the data which, if properly collected, preserved and distributed, can serve as an essential supplement to the archival and other written sources of history. As indicated above, the selection method, number of interviewed and disparity in their economic, social, ethnic and religious status impacts the outcome of the interviews. Nevertheless, this kind of project provides a new source of information for understanding Socialist life and political structure. The major outcomes of this project were presented during international workshops in Istanbul (Eurasian Studies conference, March), South Korea (IICAS annual conference), Oral History Workshop in Stockholm, Oral History Workshop in Cambridge University (Department of Social Anthropology) and many others. These workshops, conference and seminars presented the data and served as venues for receiving feedback on how to preserve and disseminate this data. Therefore, the next challenge and task of this project is to design, build and functionalize the data-base on the oral history of everyday life in Central Asia.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合 計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2009年度 | 1,800,000 | 540,000 | 2,340,000 |
| 2010年度 | 1,500,000 | 450,000 | 1,950,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総 計 | 3,300,000 | 1,000,000 | 4,290,000 |

研究分野：国際関係学

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：旧ソ連中央アジア、キルギス、ポスト社会主義、記憶、日常生活、帝国論

1. 研究開始当初の背景

中央アジアは、19世紀後半に帝政ロシアの植民地とされた後、1917年のロシア革命を契機として政治、社会、文化のあらゆる領域で社会主義化を経験した。そして、およそ70年にわたるソ連時代には、現代世界でも他に類をみないほどの大規模な変革が進行した。そして、1991年のソ連解体後、中央アジア諸国は新しい独立国家として国際社会に参入した。各国は、政治と経済の大転換をめざすとともに、国家と社会の安定をはかる努力を続けている。その過程で、中央アジアの人々も大きな変容を相次いで経験してきたが、彼らは自分たちが生きてきたソ連時代を分析し整理する機会を十分にもたなかった。それは人々の現代を見る眼にも影響を与えている。

独立を果たしたキルギスは、多くの国々と国家間関係を発展させ、国際社会と積極的に関わり始めた。社会主義経済から市場経済への転換が進行し、政府は広範囲にわたる改革を実行しはじめた。その過程で、キルギス社会には統一感よりも経済的格差による社会の分裂が生じている。変化の波に乗り遅れてしまった人の多くは現状に満足できず、ソ連時代という過去を美化しがちである。多くの場合、こうした人々はソ連時代の方が現在よりも良かったと考え、彼らの間にはノスタルジーが広がっている。そのような傾向は、かつてのエリートや、社会でもっとも脆弱な

層に顕著である。彼らは今もなお過去に縛られ、現在起きていることもすべてソ連時代というフィルターを通して理解しようとする。確かに、現在中央アジアで起きていることの多くは過去と関連しており、ソ連時代のメンタリティや、その時代の物事に対する姿勢から影響を受けている。しかし同時に、過去の重要性はそこから教訓を得ることで現れるはずである。それは人々に前向きの力を与えることにもなるだろう。

2. 研究の目的

本研究は、中央アジア・キルギスの人々がソ連時代をどのように記憶しているか、そのインタビュー調査記録を画像として保存、公開することを目的とする。ソ連時代の記憶は、ソ連解体後の現代においても、人々のアイデンティティや現代史の理解において重要な意味を持っている。本プロジェクトは、ソ連時代を生きた比較的高齢の人々を訪ねて普通の人々の目線から見た当時の社会や生活の記憶を収録する。それを映像資料として保存、公開することにより、ソ連時代と現代の急速な変容とを相対化してとらえ、人々が新しい社会の形成において前向きの展望を得る契機を提供したい。ソ連時代の記憶は今記録しておかなければ、永久に失われてしまうだろう。

3. 研究の方法

人々の日常生活を通して歴史を検討するにあたり、研究チームは以下三つの手法を組み合わせながら使用した。このような三つの手法を組み合わせることは、本書が取り組むような分野では一般的に使われており、**triangulation** と名付ける研究者もいる。

第一の手法は研究対象になる人々の中に入り込み、一定の時間を過ごしながら観察し、インタビューを実施することである。2 そのような手段を用いる意図は、ソ連時代の中央アジアにおける人々の日常生活は具体的にどのようなものだったのか、対象者らの人生にいかなる特徴と相違があったのか、そして、それらがいかに当時の時代的特徴やキルギス、より広くいえばソ連の政治状況を表していたのかを探るためであった。

第二の研究手法は、ソ連時代のキルギスに関する情報、ステレオタイプ(偏見、固定観念)、文献などを批判的観点から再検討することであった。ここでいう批判的観点とは、単に「何かに共感できないから批判する」のではなく、ソ連時代のキルギスにおける人々の社会参加、ものの見方、国家に対する姿勢などに関して、従来の理解とインタビューによって現れた現状とを照らし合わせ、相違を追及することである。つまり、現在まで存在してきた偏見、固定観念を問い直し、人々の生活や彼らの歴史観に関して新しい見方を提供することである。

第三の研究手法は、インタビュー対象者がソ連時代における人々の生活について述べたことをもとに、当時の日常を再現する一環として、「参加型」の研究を試みることであった。インタビューの際に様々な疑問を投げかけ、回答者に刺激を与えた。これは、研究チームと研究協力者が、インタビューに応じた人々と共にソ連時代のキルギスにおける人々の日常生活の実態、問題点、利点を共同で考えることを意図している。その手法のコンセプトは、家族もしくは親戚、友人などによる内輪の人生話である。単に一人が語ることを皆で聞くのではなく、そこで交わされる話を聞き、インタビュー回答者や実際にインタビューを行う研究協力者が話し合いに参加する。そのような仕組みを通して、ソ連時代の日常生活と人々がどのような考え方のもとで生きていたのかをより明確にしていく。話し合いの成立過程と仕組み

については次節で詳説する。

それらを補完するために、インタビューの観察(テープと個人的に参加する)や、インタビュー内容の時期に関連する資料の収集・分析も行った。

4. 研究成果

本研究の成果として以下のことがあげられる。まずは、日本と現地の研究者がキルギスの 60 代から 80 代の一般の人々の証言、資料や情報を共同で収集するだけでなく、画像化とデータベース化による保存と公開を目指してきた。その結果、2009 年 4 月から 2011 年にかけて、複数の共同現地調査が実施されており、これらを通して 75 人の高齢の回答者の意見を集めることができた。これらの文書化と翻訳が進められていると同時にこれらのインタビューの映像が加工されて公開のための準備が進められている。第二に、本研究の研究成果は複数の国際会議において公表されており、これらはケンブリッジ大学、イスタンブール・マルテペ大学、ストックホルム大学で開催されたものである。また、本研究の成果は『記憶の中のソ連—中央アジアの人々が生きた社会主義時代』という著書の形で筑波大学出版会により刊行された。第三に、本研究の過程を通して、日本と現地の研究者や市民の間にソ連時代の記憶というキルギス市民の遺産に関して共通の認識や理解を深め、より客観的な歴史観を形成することができるよう努力がなされた。さらに、本研究は、普通の人々の記憶を収集するとともにこれを映像資料として市民に還元し、その共有化をはかるという特色がある。これは、広く近現代史と現代の変容、様々な不安定要因や社会内の諸問題に対するローカルレベル(一般国民の目線)での認識の深化を促すと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- ① Timur Dadabaev, 2010, "Power, Social Life, and Public Memory in Uzbekistan and Kyrgyzstan", *Inner Asia*, N.12 (Department of Social Anthropology,

University of Cambridge/Global Oriental), pp. 25–48。査読あり

- ② Timur Dadabaev, 2010 "Remembering Soviet Past: Recording and Compiling Audio-Video Materials on Everyday Life Experiences and Public Memory in Post-Soviet Kyrgyzstan", *Report of the JFE 21 Century Foundation Funded Projects*, Tokyo: JFE 21 Century Foundation, pp. 51-57. 査読あり。
- ③ Timur Dadabaev, 2010 "'Official' Historical Discourses and Living Histories in Central Asia: Recollecting Collectivization and Stalinist Repressions in Uzbekistan and Kyrgyzstan ", *Colonial Rule and National Integration in the Modern Period*, Seoul (in Korean), pp.97-133 査読あり。

〔学会発表〕（計 2 件）

- ① Timur Dadabaev, “Soviet past remembered and the feeling of Nostalgie in Central Asia”, 京都国際会議場、Islamic Area Studies Annual Conference, December 17, 2010.
- ② Timur Dadabaev, Shanghai Cooperation Organization: Values and Construction of Norms, Slavic and East European Studies Society, Stockholm, July 26, 2010.

〔図書〕（計 1 件）

- ① ティムール・ダダバエフ、『記憶の中のソ連ー中央アジアの人々が生きた社会主義時代』、筑波大学出版会、2010 年、270 ページ

6. 研究組織

(1)研究代表者

ティムール・ダダバエフ (TIMUR DADABAEV)
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・准教授

研究者番号：1 0 3 7 6 6 2 6